

第2章

県民交流広場間のネットワークの推進

1 地域コミュニティ・アワード2011の実施概要

県民交流広場の実施地域が690地区、県内全校区の82%となる中、広場活動がさらに充実して実施されるよう、全県レベルでの交流の場として、「地域コミュニティ・アワード2011」を平成23年11月27日（日）に兵庫県公館（神戸市）において実施。

神戸地域の「神戸地域県民交流フェスタ」とボランティア活動を顕彰する「ひょうご県民ボランティア活動賞表彰式」を“地域コミュニティ・フェスティバル”として共同開催し、500人を超える人が訪れた。

当日は、地域の代表によるブース展示をはじめ、広場同士の交流を図る地域交流フォーラム、さらにモデル的活動を展開している広場のコミュニティ賞の表彰式を行った。

◇ 各県民局の地域代表によるブース展示

各県民局の代表2地区、計20地区の広場実施地域をはじめ、神戸地域の5地区、合計25のブースが出展。

自転車による自家発電の実演や、離乳食教室を通じた子育て支援、エコ活動による交流の促進、財源確保に向けた取組紹介など、ユニークな取組やモデル的な活動について、工夫を凝らしたパネル展示により日頃の活動を披露した。

今後の継続した活動に向け、それぞれの広場が交流し、学習し合う良い機会となった。



【ブース展示と交流風景】

◇ 広場同士の交流を図る地域交流フォーラム

県民交流広場事業の取組のノウハウや課題を共有し、意見交換を行う地域交流フォーラムを実施。

コミュニティ応援隊の坂本津留代、辻信一両氏をコーディネーターに迎え、都市部から中山間地域まで県内4地域の広場の代表者が、少子高齢化や地域資源を活用した財源確保、人材育成、組織運営について発表すると共に、参加者との意見交換を行った。

多くの広場に共通するテーマについて熱心な議論が行われ、地域性を活かした取組の必要性があらためて確認された。



【地域交流フォーラム】

◇ モデル的な活動をしている広場の顕彰

選考委員が各展示ブースをまわり、出展した広場の中から、今後のモデルとなる活動や特徴的な取組を展開している5つの広場を「県民交流広場コミュニティ賞」の部門賞として、展示内容や出展者との意見交換をもとに選考し、金澤副知事より部門賞・奨励賞を贈呈。

野崎隆一選考委員長からは、「総合力を発揮している団体や、特徴的な活動を実施している団体など、様々な活動があった。地域の小さなグループで活動していた人たちが、県民交流広場事業によって繋がってきているのが、5年間の広場事業の成果ではないか。」との講評があった。



【表彰状の贈呈】

《 県民交流広場コミュニティ賞 部門賞 》

- | | | |
|-----------|-----------------------------|------------------|
| ① いきいき広場賞 | ： 上郡町 ^{あかまつ} 赤松地区 | 赤松校区むらづくり推進委員会 |
| ② なるほど広場賞 | ： 豊岡市 ^{みなと} 港地区 | 港地区区長会 |
| ③ みんなで広場賞 | ： 尼崎市 ^{おおしやう} 大庄地区 | 大庄コミュニティルーム運営委員会 |
| ④ すくすく広場賞 | ： 高砂市 ^{あらい} 荒井地区 | よってこ村・荒井運営会 |
| ⑤ しっかり広場賞 | ： 淡路市 ^{いくた} 生田地区 | 生田地域活性協議会 |

〔岡田代表：あいさつ〕

皆さん、おはようございます。ただいまご紹介にあずかりました、県民交流広場全県連絡協議会の代表世話人をいたしております岡田でございます。よろしくお願いいたします。神戸市北区八多地区から出てきております。

地域コミュニティ・アワードは今回が3回目となります。これまでは加東市の嬉野台生涯教育センターを会場として実施してまいりましたが、今回は初めて神戸で開催することになりました。

今日は天気恵まれまして、皆さん方と交流が出来る場所を提供していただき、非常にうれしく思っております。大変楽しみにしておりますので、交流のほう、よろしくお願いいたします。

私たちの広場もアワードに参加し、県内各地の皆さんと交流することで、大きなエネルギーをいただきました。野外ステージでの演芸発表会や、町内文化祭の発表をはじめ、各地の活動を元気いっぱいに行っております。本日も開会に当たり八多太鼓の演奏をやらせていただきました。アワードへの参加が活動の励みとなり、本当に良かったと思っております。



さて、本日は「元気なコミュニティづくりを目指して」をテーマに「地域コミュニティ・アワード2011」、「神戸地域県民交流フェスタ」、「ひょうご県民ボランティア活動表彰式」の、3つの行事を合同で「地域コミュニティ・フェスティバル」として盛大に開催することになりました。

今回は各広場の展示に加えて、特に地域交流フォーラムの時間を充実いたしました。実りのある話し合いになることを期待しております。

このようなフェスティバルが実施できますのも県民交流広場、全県連絡会議や県内各地で活動

されている広場の皆さんをはじめ県民局、市町のみなさんのご尽力の賜物であると思っております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

県内各地の広場のみなさんが活動のノウハウをはじめ、さまざまな課題を持ち寄って話しあうことはさらに広場が元気になり、継続的な運営と活動につながっていくための意義有る機会と考えております。

本日のフェスティバルがお集まりの皆さんの交流の場として、さらに情報の共有の場として、大きな成果となりますことを祈念しまして、開会宣言と致します。ありがとうございました。

〔高井政策監：あいさつ〕

皆様、おはようございます。

向井さんの軽妙な司会と八多太鼓の力強い音で、大変元気よくスタートしたわけですが、今日は県下各地から大勢の方にお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。きっと朝早くからお家を出られたんだと思います、ご協力に感謝を申し上げます。

またご来賓の先生方、アワード選考委員の先生方にも、来ていただきましてありがとうございます。



県民交流広場事業は、2年のモデル期間、そして5年間の本格実施の期間を経て、10月現在で690地区が活動を始めました。小学校区でいいますと県下829地区ありまして、そのうちの82%で活動が始まっています。

去年採択したけれども活動はこれからというところもあり、最終的には県下の小学校の90%でコミュニティ活性化のための活動が展開されていますが、まだこれからというところが非

常に沢山ございます。あるいは一定の活動、軌道には乗っているとは言いながら、「お金どうしようかな?」「後継者どうしようかな?」、色んな課題を抱えたところもございます。それを一堂に会して、交流をする中から知恵が生まれ、それがコミュニティ広場の継続と中身の充実、これに役立たいというのが今日のコミュニティ・アワードの趣旨でございます。

連絡協議会の先生方とも、皆様ともご相談をして企画したのですが、1つは各10の県民局から2広場ずつ、合計20の団体に会場にブース展示をしていただき、それから相互の交流・情報交換のためのフォーラム。それから、最後にモデル的な活動をしていただいている広場を顕彰するコミュニティ・アワードの選出。この3つを内容としてございます。お集まりの広場の皆様方が、それぞれの活動範囲を超えて、県下広くある他の広場と交流しようと、機運を盛り上げていただくことで、県下全ての交流広場の活動が持続し、ますます活発になることを願っています。

岡田代表からのご挨拶にもありましたけれども、コミュニティ・アワード2011だけでなく、神戸地域の皆様の交流を深めていただくための「神戸地域県民交流フェスタ」、それから、県下あちこちでボランティア活動を繰り広げている皆様方を顕彰する「ひょうご県民ボランティア活動賞の顕彰式」も併せて実施をしていただきますので、3つ巴で大いに盛り上がることを期待しております。

外にはおいしいものもあるようですので、いささか長丁場ですが、どうかよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本日の開催のためにご尽力いただきました皆様に感謝申し上げますと共に、それぞれの地域で皆様のご活躍され、コミュニティ活動がもっともっと進展することを祈念して、簡単ですがご挨拶といたします。どうかよろしく願いいたします。

〔野崎委員長：あいさつ〕

どうも皆さん、こんにちは。

今日は先ほど紹介にありました審査委員が皆さんのブースを回って審査をさせていただきます。ただ、これはみなさんの活動に優劣をつける

のではなくて、今日出ていただいている各県民局から20の活動については、全て非常に優秀な良い活動をされておりますので、全部知事賞の対象となっております。ただそのなかで、色んな活動のユニークさ、それから着実さ、色んな視点から5つの賞を設けておりますので、そのどの賞にあたるかというところを我々が審査をさせていただこうと思っております。



地域の個性や地域資源を生かした活動ということで「いきいき広場賞」。独創的でユニークなアイデアを出されているところを「なるほど広場賞」。多くの住民であるとか、地域外の人たちも巻き込んで、情報発信をしたりしている活動については「みんなで広場賞」。各地区で色々なお悩みがあるわけですが、後継者育成であるとか、財政的な面であるとか、そういったところ、しっかりと取り組んでおられるところを「すくすく広場賞」。最後に、色々地域で広場を運営していく上で、みんなで話し合っ、出来るだけ多くの人を巻き込んで、色んな意見を聞いて活動されているところを「しっかり広場賞」。というようなことで、5つの賞を設けておりますので、よろしく願いいたします。

審査員が5人回りまして、色々質問をさせていただきますので、しっかりお答えいただくと、審査にプラスになるかと思えます。よろしく願いいたします。

1-2 地域コミュニティ・アワード2011 地域交流フォーラム

- ◆ 日時 平成23年11月27日(日) 12:30~14:00
- ◆ 場所 兵庫県公館 大会議室
- ◆ 出席者 コーディネーター：坂本 津留代氏、辻 信一氏
(コミュニティ応援隊アドバイザーグループ)
パネラー : 高橋 良雄 氏 (神戸市多聞台地区)
三木 清一 氏 (姫路市林田・伊勢地区)
渡辺 一雄 氏 (朝来市奥銀谷地区)
田村 伊久男 氏 (淡路市生田地区)

【辻】

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました辻と申します。どうぞ、よろしくお願いします。

今日はたくさんのブースが出ていまして、色々とそれぞれご紹介いただいているのですが、単にそれぞれの活動をブースで説明するわけではなしに、色んな皆さんがお越しなので、共通する課題・話題について、意見交換してみたいなと思います。後ほどご紹介いたしますが、県下から4地区の方々にお越しいただきまして、それぞれの地区で、こんな活動をやっていますよ、こういう風な想いでやっているんですよ、というようなこととお話しただいて、それから、会場の皆さん方からもご意見をいただくという、そんなことを考えています。

今日はフォーラムというような堅苦しそうな名前がついていますが、皆で意見公開をする会、意見交換会と思っていただいたらいいのかなと思います。

今日のテーマですが、4つございます。2ヵ月くらい前になりますが、全県連絡協議会を開催しまして、その中で色んな課題があって、かなり共通するような部分がありました。1つは少子高齢化、全国的に少子高齢化の時代になっております。そういう時に地域として、どうしてやっていったらいいのか、という大きな課題がありました。それからもう1つは、色んな活動をする中で、財源をどう確保していったらいいのか。そして、それに少し絡むかわかりませんが、地域の資源を有効に活用するにはどうしたらいいのか。そういう話題がございました。それと、地域活動する人材育成です。どの団体も、一生懸命やっている人がどんどん年とっていくので、それに応じて新しい方が入ってきていただければ大変有り難いのですが、なかなか思うようにいってないというのが、各団体の活動の現状、というものがございました。それから、4つめは、団体の組織の運営の仕方です。組織の運営の方法とか、あるいは、その組織をNPOの法人にしようとか、色んな

活動がございまして。その辺でお悩みのところがあるうと思いますので、そういうことも今日、ご経験された方々からご報告いただく、そんな会にしていきたいと思います。



今から約90分、ちょっと長丁場ではありますが、気楽にいききたいと思います。あまり肩肘張って、私もやるつもりはござ

いませぬので、できたら皆さん方からも色々ご発言いただければと思います。

そして今日、私と一緒にこの運営をお手伝いいただきます、コミュニティ応援隊の坂本さんです。

【坂本】

坂本です。よろしくお願いします。

先程少し打ち合わせをさせていただきましたが、「あなたの場合は、マイクを持って会場を回ればいいんだけど、大切なことは、たくさんの地域からお話をいただきたいということで、2分、2分でそこで『ありがとうございます。』という風に持って行ってくださいね。」と言われて、これがなかなか難しいなと思いつつながら、ぜひ皆様のご協力をいただいて、たくさんのご意見を聞きたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【辻】

ということです。喋り出したら止まらへん人、いらっしゃるんですね。他の方もいらっしゃると思いを馳せていただきまして、できましたら2分くらいでお願いします。

それでは、こちらに4名の今日のパネリストの方々がおられますので、まずは、私はどこの誰だ、こんなことしています。ということくらいを自己紹介していただきたいと思っております。それでは多聞台地区、どうぞ、よろしくお願いいたします。

〔高橋：神戸市垂水区多聞台地区〕

こんにちは。神戸市垂水区から参りました、多聞台ふれまち協議会の高橋です。

私たちの町、多聞台というのは約45年前、昭和39年頃にできた町です。その頃、神戸市で第一号の大規模開発団地でした。大勢の若い夫婦が入居いたしまして、どここの家庭にも2人～3人、子どもがおりまして、大変賑やかな町でした。多聞台小学校には1,200人くらいの児童がおりまして、近辺でもまれに見る大きなハイカラな町だったわけです。



「ところが、あれから40年…」というのは綾小路きみまろさんです。あれから45年経ちますと、若くして入居した20、30代の夫婦が全て60代、70代、80代になってしまったわけです。で、あれほど大勢おった子どもたち、どこいったかというところ、東京や大阪に出て行って、もう帰ってきません。残ったのはジジイとババアばかりです。

まち歩いとして出会うのは年寄りばかり、こういう状態ですので、今では団地のショッピングセンターは、ほとんど全部シャッター下ろしています。つい2年ほど前まで、トーホー多聞店というのがあったんですけど、そのトーホーも裸足で逃げていってしまいました。売れませんから経営が成り立たない。お年寄りはあまりモノを買いません。ですから、商売が成り立たないということで、我が多聞台は寂れる一方です。

その寂れ方になんとか歯止めをかけようということで、私たちふれまち協議会のメンバーは奮闘努力しております。この後和太鼓チームの演奏があるのですが、そういう和太鼓チームも立ち上げました。正月には左義長もやります。春には菜の花祭りをやりますし。夏は盆踊り、秋は文化祭、もうすぐ餅つきもやります。もうありとあらゆることをやって、町おこしをしているわけですけども、住民の老いには歯止めが全然かかりません。というような状況です。

〔三木：姫路市林田・伊勢地区〕

皆さん、こんにちは。林田町から来ました三木でございます。林田と伊勢、小学校区は違いますが、統合して県民交流広場事業をっております。

林田は、古くより山陰と山陽を結ぶ因幡街道沿いに発展した町でございます。江戸時代では、林田藩、

建部公一万石の城下町でございました。そういう面では、それに付随する色々な文化遺産等もあるわけでございます。そういう中で、新しい地域資源と古い文化遺産を融合した町をつくりたい、ということで活動を続けております。

町おこしキャラクターは、ゆたりん姫と河野鉄兜先生でございます。ゆたりん姫は、林田に温泉がございまして、林田温泉、姫路市はやしだ交流センターのゆたりんという温泉です。

河野鉄兜先生は、後ほど歴史の関係で少し触れさせていただきますけれども、林田藩の藩校の先生でございました。網干出身で、林田に来ていただいたわけでございますが、なかなかできた人物であったとお聞きしております。熊本藩のほうからぜひ呼びたいというお話があつて、今でいう引き抜きをされそうになったんですけども、第2のふるさとである林田のために骨を埋めたいということで、当時の林田の町おこしをやっていただきました。

現在の設備と古い設備を融合するために、ゆたりん姫、河野鉄兜先生を町おこしキャラクターとさせていただいております。



私もサラリーマンでございましたので、現役時代は「林田は姫路の北海道である」とよく言われまして…北海道の皆さん、ごめんなさいね。そういう意味ではありませんので。「いやそのうち軽井沢にしますから」とよく言っていたのですが、姫路市は南北約20キロあまりでした。それが平成18年の合併で、なんと35キロになりました。姫路の西北部の中間が、林田町になってしまったんです。やっぱり軽井沢になったということで、地形的に真ん中になりましたが、林田町自身が姫路市の中で、中心だと言えるような環境ができればというふうに考えて、活動を進めているところでございます。

ただ、なかなか難しいところもございまして、林田は所帯が2,000所帯、人口は5,700人くらいで、65歳以上の方が27%強を超しております。毎年1ポイントずつ上がっております。30%を超えるのはもう時間の問題だという時期でありますけれども、そういう中でコミュニティ活動の充実を図って、町おこしを進めたいということで頑張っております。またぜひ林田にもお越しいただきたいと思っております。ありがとうございます。

〔渡辺：朝来市奥銀谷地区〕

皆さん、こんにちは。私は、朝来市生野町奥銀谷地域自治協議会の渡辺でございます。本日はよろしくお願いたします。本日の活動報告なり、地域の活動については、時間制限をされておりますので、脱線すると時間オーバーになりますので、ちょっと資料を見ながら報告をさせていただきたいと思っております。

それでは、地域自治協議会と、地域についてのご説明をさせていただきたいと思っております。地域自治協議会と申しますのは、この少子高齢化におきまして、「1つの区では行事ができない」という区が数多くできまして、それでは地域で活動に取り組んでいってはどうかという、そういう思いでできたのが、この小学校区を単位とした自治協議会でございます。その「もと」になりました小学校におきまして、平成20年度末をもちまして、閉校となっております。地元として非常に寂しい限りでございます。

奥銀谷地域は朝来市の一番南部に属しまして、昔は生野鉱山として賑わった所でございますが、それ



が昭和48年閉山になりまして、それ以後は、生野銀山、シルバ一生野といえ、ご承知の方もあろうかと存じます。

奥銀谷自治協議会は、小学校区内8つの区で構成されておまして、その中のすでに4地区が小規模集落となっております。地形につきましては、山間の谷筋を約25キロに及ぶ細長いなごの寝床のような地域でございます。途中にもいくつも谷筋がございまして、その脇道を2キロ、4キロという山奥に入った中に、高齢者のお宅が2戸、3戸と残っているような現状でございます。また、全体としまして、世帯数にして約380、人口約1,000人、特に高齢化率につきましては、42%弱という現状でございます。活動拠点としましては、小学校の閉校になりました幼児センターを市のほうにお借りしまして、これに市からの資金援助と、県民交流広場事業を活用させていただきまして、地域の憩いの場、つどいの場として、利用させていただいております。

また、活動につきましては、特に今年度からは高齢者の買い物支援、高齢者の安否確認というような事業に取り組んでおります。(喫茶だんらん(週2回)習字教室、囲碁・将棋教室、地域ふれあい運動会、古老による地域の歴史講座など)以上で地域の

紹介を終わらせていただきます。どうも、ありがとうございました。

〔田村：淡路市生田地区〕

皆さん、こんにちは。私、生田地区の事務局をしております田村と言います。

淡路市の生田という所で、淡路島の北部のほう、高速の北淡ICから車でせいぜい10分くらいという



ような地区でございます。今現在の集落の戸数は、実際のところ140戸くらい、人口は400人という非常にコンパクトな所でありまして、その中には保育所も小学校もありましたが、それがこの数年の間に、それぞれ廃校、廃園になっております。高齢化率も、65歳の高齢者が40%近くになってくる、そういう現状の中で、地域あげて地域おこしをやっております。

22年度の助成をいただきまして、生田村交流ひろばという広場を開設いたしました。活動内容は皆さんと同じようなことになっていると思うんですけども、特徴的な点は、整備にあたっては環境学習というテーマで、薪ストーブと太陽光発電の導入をいたしました。よく色んなところで「今後、経費を浮かせるために、太陽光発電と薪ストーブを入れたんか」と言ってしまうと、県民局によくお叱りを受けるんですけども、あくまでも環境学習のために入れさせていただいております。

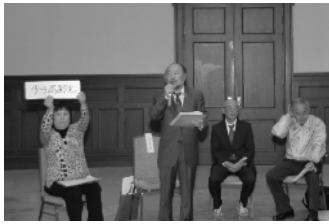
最大の特徴としては、ふれあい喫茶ということで、整備したんですけども、実は立派なそば屋さんを作ってしまった。

淡路ではそばというのは非常に珍しいんですけども、地域で5年くらい前から作り始めてきたそばを活用して、これまで屋台なんかで販売していたのですが、そば屋さんを堂々と作ってしまいました。味が良いということで、非常に人気をいただいております。今年4月にオープンして、半年で5,000人くらいの方がお越しになるということで、今の交流広場は地域の人たちだけでなく、地域外の人たちも幅広く集まって来ていただいている、そういう活動を展開しております。今日はどうぞよろしくお願いたします。

〔辻〕

皆さん、ありがとうございました。それでは、今日の進め方なのですが、先程ご紹介しました4つの

テーマについて、それぞれお二方、あるいはお三方くらいから、「我々の地域ではこうしているんだよ」と、というような報告をいただきます。その報告を聞いていただいた後、会場の皆さんと少し意見交換をしたい、そんな進め方でやりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



テーマ①：少子高齢化

最初は、少子高齢化。奥銀谷は42%の高齢化率やとそんな話でした。他の地域の皆さん方もそういうような高い高齢化率の中で、地域を維持していかなあかん、そんな状況にあるわけです。このテーマにつきましては、奥銀谷の報告、それから多聞台の報告、お二方から報告いただきたいと思います。それぞれ5分くらいずつで報告いただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

〔渡辺：奥銀谷地区〕

少子高齢化についてのお話ということですが、高齢化のほうは対策が色々あると思うんですが、少子化のほうは、私たちはどないしたらいいかなと。私たち自身では出来ることではないので、やはり地域の活性化によりまして、若者に入ってきていただくという形しかないのではないかと、そのための努力はしていかなければならないというふうに思っています。

高齢者対策でございますが、これにつきましては、先ほど申しましたように細長い地域でございますので、地域に公的な交通機関が非常に少ないということで、高齢者の方が買い物に出られない、という実状でございます。現状では、ご近所の方なり、民生委員さんの方々のお世話になっており、困っていないということです。しかしながら、ご近所の方といえども高齢者ばかりでございますので、ここ2～3年先には、ご近所の方にお預りもできなくなってくるので、その際になって取り組んでも遅いということで、今のうちに、そういう組織づくりといえますか、そういう取り組みの体制をしっかりと作っておこうということで、取り組んだのが「買い物支援」という事業でございます。

この事業につきましては、私たちの地域では、昨年度に一度企画しまして、各関係者と相談したのですが、先ほど申しましたように本当に小さな地域で

ございます。なので、ボランティアだけでは、この活動に取り組めないということで、もう一度検討し直そうということにしておりましたところ、今年は幸い、県の緊急雇用制度で人員が1名確保できましたのと、市のほうでも急激に高齢化が進む中で「対策を出さなきゃいかん」ということであつたものですから、一番高齢化の激しい私どもの奥銀谷地域をもって、社会実験として事業委託ということで、予算をつけていただきまして、この活動ができるようになっております。

また、その活動でございますが、どのようにしたらいいかということにつきまして、私どもも初めての取り組みでございますので、何をしたいのか、何ができるのか、ということを考えて「地域全体を対象としてできるようなことではない。」ということで、75歳以上の「お一人暮らしの方」と「ご夫婦だけの世帯」を対象にしまして、アンケートをとりました。「どのような買い物をしておられるか」、「どのような形の買い物をしておられるか」というようなことをお尋ねしたわけでございますが、交通の便はないと言いつつ、一日二往復の便はございます。それで、買い物に出たとしても、商店まで行って、買物をしたときに少し重たいものとか、かさの高いものを持ってはバスも利用できないというようなことをお聞きしまして、そこでやはり買い物支援ということが大事ではないかということで、この事業に取り組んでおります。

支援と言っておりますが、先ほど言った、緊急雇用でつけていただいた方に専門にやっていただきまして、対象の高齢者全員にしても、「今間に合っていますか?」「モニターさんとして協力してもらえないか」ということでお尋ねしまして、「協力しましょう」と言っていた方々を対象に、買い物支援の事業をやっておるところでございます。

やり方としましては、あらかじめモニターさんに買い物カードをお渡ししておりますので、それを受け取りまして、商品の確認と集計をしまして、地元の商店で買物を



奥銀谷地区の買い物支援事業

して翌日お届けし、商品代金をお預かりし、それを業者さんに支払います。モニターさんのところに行って買ったものをお渡しすることにより安否確認、ということで、モニターになっていただいた方は、買い物しなくても一度顔出しして、安否確認ができ

るという取り組みにしております。これも第1クールから第3クールまで分けておりまして、1、2クールはもうすでに実施済みでございます。第3クールにつきましては、1月半ばからということで、非常に間があいておるんですが、これにつきましても、今までのやったことの反省等につきまして色々と検討するとともに、特に私どもは、雪の多いところでございますので、雪が降ってからの活動はどうやってできるのか。どういうやり方をすればいいかということで、1月半ばからの最終的な取り組みを、第3クールの取り組みといたしております。

色々と他にも取り組みをしておりますが、この事業については、地域の方の協力が本当に不可欠でありまして、また、区長や民生委員さん、関連団体の方々とも企画・運営を協議しながら実施しております。また、今後の高齢化社会を見据える中で、この取り組みにおきましては、避けて通れない問題であろうかということで、協議会といたしましても、自分たちで何をどこまでできるかを確認して、今後、自分たちでできることは自分たちでやりたい。ただしできないところは、やはり行政なり各関係者との相談・協力を得ながら、この事業についてはぜひ継続してやり遂げたいという思いで取り組んでおります。以上です。

〔辻〕

ありがとうございました。次、お願いします。

〔高橋：多聞台地区〕

多聞台です。私たちは神戸市の端っこなんですけれども、一応神戸市です。神戸市にありながら高齢化率30%を超えております。これは実は、非常に寂しい話でして、年寄り、体力的にも精神的にも家に閉じこもりがちになります。この閉じこもってしまっているお年寄りを何とか楽しい雰囲気の場に誘い出さないかん、というのが、私たちのテーマです。

買い物難民というのが今のテーマですけれども、私たちもやはり同じ問題を抱えております。一番近い食品スーパーまで、歩いて約1.5キロあります。往復3キロの道を、荷物を担いで通うというのは、大変苦痛な話です。バスで行く人もおりますし、車のある人は車で行くんですけども、病気がちのお年寄りにとっては、これは拷問だと思ふんです。何とか団地内で買い物をしていただける仕組みをつくらないかんというのが、私たちが朝市を立ち上げた根本の目的でありまして、この朝市、実は今月で

丸一年を迎えました。ただ問題点は、先ほども申しましたとおり、お年寄りには購買意欲がないんです。お一人暮らしであるとか、夫婦2人の年寄りだとか。ほとんど、食料を大量に買う必要のない家庭ばかりですから、朝市をやって、業者の方に来ていただいてもほとんど売れない。そういうわけで、この一年間、何度もつまずいて、何度も壁にぶつかって、「もうあかん、もう続けられへん」というような大変つらい思いをしました。

ところが、何とかかんとか1年間持ちたえられたのは、一つの工夫があったわけです。朝市の会場にふれあい喫茶店を開設しました。青空の下で、おいしいコーヒーを飲んでもらう。おいしいサンドイッチを食べてもらう。独自に工夫した「たもんだ焼き」というような、先程までそこで売っておったんですが、そういう食べ物も工夫して、協議をしました。そのおかげで、朝市にはあまり用のない人までが、参加してくれるようになりました。



「たもんだ焼き」を提供する多聞台ブース

というのは、多聞台にも、昔はレストランもあったし、喫茶店もあったんですが、今はそういう「くつろぎの場」が全然ないわけです。そこで私たちが青空の下で喫茶を開いたと。それがお年寄りにとっては、多聞台で唯一くつろげる場所として、好評を博する1つの要因になりました。このおかげで、つぶれかけてどうにも立ちゆかなくなっている朝市が、なんとかかんとか持ちこたえるようになっております。

このことから1つの教訓が得られました。というのは、お年寄りというのは、交流、触れ合いを求めているんだ。そういう機会さえ作ってあげれば、どんどん戸外に出てきて、交流の場を広げてくださるんだ、ということがわかりました。

このことから1つ学んだついでに、私たちが進めている活動、全ての活動を住民の交流の場にするというテーマに切り替えました。例えば、台所のゴミを持ち寄って堆肥をつくらうではないかという教室を開きます。これはエコ活動です。エコ活動ですから、台所のゴミを捨てずに堆肥にするということも大事なんですけれども、その場に集まって皆がワイワイがやがやと会話をする、交流をする、このことが大事なんだ、というふうに捉え始めました。このことは、石けんづくりも同じことが言えます。天ぷら廃油を持ち寄って、石けんをつくらうではないか

ということになりますと、それぞれの天ぷら廃油を持ってきて、皆で石けんをつくる。これがまた、楽しい場になるわけです。

このことから言えるように、私たちはふれまち協議会の活動として、色んなことをやりますけれども、全て「交流の場」という大きなテーマのもとにやるんだという風に、途中からですけども、切り替え始めました。それは、全て朝市における、あのつまりきから立ち直れた、ふれあい喫茶のおかげだと私は思っております。

〔辻〕

ありがとうございました。奥銀谷のほうでは買い物支援というテーマで、県の緊急雇用の制度をお使いになられている。で、その買い物支援をする中で、安否確認も一緒にやっているんだよ、そういうようなお話がありました。

それから、多聞台からは朝市、買い物難民というようなことを、できるだけ解消するためにも朝市というようなものを企画したんだけど、それだけではなかなかうまくいかなかったから、ふれあい喫茶というような工夫を合わせることによって、地域の方々に支持を得てきた。そんなお話がありました。

それでは今のお二方の発表へのご質問とか、それから、それぞれの地域で「こんなことやっているんだけど、どうだろうな」とか、ご意見を含めて頂戴したいと思います。先ほど言いました2分間をお願いします。

〔坂本〕

いかがでしょうか。会長が「一生懸命言わないといけない」と頑張っていたら、是非応援をしてあげていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。奥銀谷地区の皆さん、おられますか。ちょっと手を上げていただけたら嬉しいんですが、是非一言、会長一生懸命頑張っておられたので、一言応援を言ってあげていただければ。

〔会場：奥銀谷〕

会長、上手に報告されてたんで感激しております。以上です。

〔坂本〕

良かったそうです。じゃあ多聞台の地区の皆さん、おられますか。本当に色んな工夫をお話しいただいたんですが、もう一言というような、「会長、これ

も言って欲しかった」というようなことがあれば、すごい参考になりますのでぜひ、おられませんか。お願いします。

〔会場：多聞台〕

高橋さん、いつもありがとうございます。私たち若い人間も、多聞台でああいう力強いお年寄りを頼りにしながら、いつも地域のイベントとか、そういうのに参加させてもらって楽しんでいます。

これからもぜひ、元気で頑張ってやって欲しいと思います。これからもよろしくお願いします。

〔坂本〕

素晴らしい応援をいただきました。

〔辻〕

ありがとうございました。

奥銀谷の方にお伺いしたいんですが、今は県の緊急雇用という制度で、専門員さんですか？来ていただいてやっているんですが、これもいつまで続くかわからんなところなんですが、県、行政の支援が必要だということがお話の最後のほうにあったんですけども、人材を何とかこう提供して欲しいところが主なんでしょうか。

〔渡辺：奥銀谷地区〕

これは今、実験中でございますもので、自分たちでどれだけ出来るのか、どのようなことを協議会で受け持っていくのかということが実際わかりません。なので、今、人が欲しいとか、お金が欲しいとかいうことは、まだ実際にわかっておりません。ただし、財政面においてはもう私たちの地域自体におきまして、人にお金を払って、お年寄りを全部カバーしていくというような財政力はございませんので、これはやはり、行政のほうで、高齢化社会に向かって、どういう取り組みをするかということで、明確な姿勢を見せていただいて、そういう中でのご協力をいただきたいと思います。

それと、人材ですが、これも先ほど申しましたように、1,000人くらいのところで、40%を超えている高齢化地域でございますので、やはり活動していただいている方が限られております。なので、これ以上、活動が増えると一部の人に負担がかかります。ということで、特に財政的な支援をいただければ、人を雇用して専任でやっていただけたらというように思っております。

〔辻〕

ありがとうございました。今、奥銀谷が実験的に
おやりになっていると、これが成功すれば、全県下
に広がっていくという可能性を秘めているのでは
ないかなと思います。

はい、それでは、次のテーマに移りたいと思いま
すが…ああ、ご意見があるようです。

〔会場：多可郡多可町〕

失礼します。多可郡多可町からやってきましたイ
シハラといいます。少子高齢化について、お話があ
ったかと思うんですが、少子高齢化というのは、ど
の地域に限ったということではなくて、日本中の問
題だと思えます。その高齢化、高齢者に対して、地
域が色んなことを起こして行って、何かしてあげる。
とかいうのも大事なんですけども「高齢化になった
から、こんな地域づくりができたよ」というような、
そんな例がどっかにないですか？ あったら聞かせ
ていただきたい。

というのは、各家庭が核家族化した中で、お年寄
りと一緒に暮らして、自分の身近なところで、お年寄
りと関わっていくという経験がないわけです。そし
たら、せっかく長い人生経験で持っている色んなこ
とを子どもたちに伝えるということができなくなる
のです。それによって、若者の色んな社会的な問
題が起きてきたのではないかと。

だから「高齢化になったからこそ、こんなことが
今はできるぞ」というような、何かそういう体験、
あるいは考えがあれば、聞かせて欲しいと思います。

〔辻〕

「高齢化問題」といわれたりするのですが、高齢
化になってきて弊害ができて、それに対応するとい
う話はよく聞くのだけれども、高齢化だからこそ、
何かできたことはないのか、というご質問だったか
と思うのですが、前の方以外の他の方々でも、我々
のところは老人パワーがいっぱい出てきて、それで
こんなんで来たんやというような、そんなところは
ありませんか。こんなことやったんだというのはあ
りませんか。あればぜひともお聞かせいただきたい
と思いますが…、無いようですね。

これは、たいへん大きなテーマです。高齢化やから
困った困った、ではなく、だからこそ、こんな良
い地域ができたんだよというように言いたいです
よね。今日は「そういうことで頑張ろう」というテ
ーマを出していただいたということで、よろしいで
しょうか。ありがとうございました。ぜひ、来年の

こういう会の時に発表できるように、皆さんも頑張
ってくださいね。

テーマ②：財源確保（地域資源の活用）

それでは、2つめのテーマに行きましょう。だい
ぶ時間がきてますので、財源確保、地域資源の活性
をということで、淡路の生田地区のおそばのお話、
それから、姫路の林田・伊勢地区の重要文化財、そ
れから太陽光発電、そういうあたりのお話を伺いた
いなと思います。それでは生田から。

〔田村：生田地区〕

生田というのは、先ほども申しましたように、そ
ば屋さんを県民交流広場で経営をしております、
結構たくさんの方がお越しになって、週末になると
お昼には行列ができるそば屋さんです。ただ、今、
辻さんのほうからお話があったような地域資源と
いう話であれば、生田の場合は、少し違うと言いま
すか、戦前とかそういう時期は多少食料難というこ
とでそばを作っている、そういうような話もあるの
ですけども、地域的にはそばをそういう大規模に作
っていたという事例は今まではないのです。国の色
んな事業を取り入れる中で、地域の景観を何か考え
なくてははいけない。何か花を植えなければいけない
というところで、「ヒマワリとかコスモスというの
はどこでもあるよ。ちょっと違う花を植えよう。」
ということで、そばを植えてみようということにし
て、それをやったのが、平成19年ですから5年前
です。5年前にそばを植えて、そばを植えると1カ
月もしたらもう、一面が真っ白になるほどきれいな
花が咲きますから、これだけ綺麗だったら、1つイ
ベントをやろうということで、急遽、花が咲き出
してから「そば花まつり」ということで企画してや
ったんです。人口が400人くらいの所に、だいたい
400～500人くらいの方がお越しになって「お
お、これはこれは」ということになりまして、今
でこの「そばまつり」、5回目になるのですが、こ
の前の10月19日に開催した、そば花祭りのほう
は、4,500人の方が来られて、細い田舎の道に
見渡す限り車の大渋滞でして、警察にもたくさんお
叱りを受けました。そんなふうに、たくさんの方が
お越しいただくということで、地域としてはこのこ
とによって、活力をいただいているということです。
最初の年にイベントをやって、やがて花が散って、
実がなった。この実をそのまま捨ててしまうのはも
ったいないから、1回食べてみようやということに

なったのです。当然、そばを実にする道具なんて何も持っていませんから、稲のコンバインだとか、ハーベスターだとか、そういう脱穀の機械を持ってくるのですが、どうしてもうまくいかない。ついに40～50年前の足踏み式の脱穀機を持ち出して、何とか実にして、確か加古川かどっかの業者の方をお願いをして粉にして、製麺業者に作っていただいて、全戸にそばを配ったんです。これがおいしいという話になって、これはもう少しいけるんじゃないかということで、そこから急遽屋台を作って「そばを売りに行こう」と、テキ屋さんをやり始めたんです。露天商として、そばを売るということをやっていた。そのうちに、「これは絶対そば屋を作らないかん」という、そういうふうな話になっていたわけで、県民交流広場事業を活用して、何とかうまく、騙してやれないかなど。ふれあい喫茶とあって、そば屋をじつはやろうと。そういうことをずっと計画してきて、しかし意外と正直な話をしたら、それでもいいよというお話をいただきまして、それで安心して、ふれあい喫茶+そば屋と、「そばカフェ生田村」といいまして、今非常にたくさんの人たちがお越しになっています。



「そばカフェいくた村」
そば打ち体験教室

白慢はやはり、自分のところでつくって、自分のところで粉にして、そして自分のところでそばを打って、お出しをする。そういう形をとっておまして、非常に口コミでおいしいというのが評判になりました。先だっつの23日ですか、NHKの「ひるブラ」という番組で、戸隠のそばの特集をしていたんですけども、実はその夜、私ども協議会の役員とこの「そばカフェいくた村」のスタッフ全員が夜行バスで戸隠まで行ってきました。長野県のほうの新潟県境です。23日の夜の10時に北淡を出発しまして、翌日の9時半に帰ってきて、超・強行軍。若い人でも好きでもそこまでやらないという、うちの会長は81歳ですけども、81歳の会長を先頭に、平均年齢が65歳くらいです。30人ほどが、夜行バスで戸隠に行って、そばを食べるといような研修だったわけです。それで、全体の皆さんのお話としては、勝ったなど。味としてはうちのほうが良いよ。そういう結論になりました。自分とこの花は赤く見えるみたいなどころもあるかわかりませんが、結構これいけるんじゃないかということになりました。

ただ、技術的には学ぶ面もまだまだ多い、そばというのは非常に奥深いですから、自分たちが練習しながら1回そばを打つごとに味が変わっていくというのも、自分で体感をしましたから。

非常に奥深いものがあるんですけども。そういうことを目指しながらやっております。

財源という問題でしたけども、おかげさまで多い時は今まで、1日最高180人くらいの方が、そばを食べに来ていただきましたけども、そこそこ収入がございました。今、市のほうから、廃園になった保育所をお借りしているんですけども、建屋の使用料をとってやろうかという話に結びつかないかと、新たな心配も片一方ではあるわけです。

朝日放送の「人生の楽園」であるとか、地域再生の番組であるとか、そういったテレビなんかにとりあげられていただいております。今はサンテレビで、メダカのコタロー劇団が「コタローとおはよ〜!」という番組をやっております。その中でも、若干紹介をされております。残念ながら歌うまではやっていただけないということで。何とかこれで、財源を確保しながら、交流広場事業とか、もっともっと先まで長く続けられるように、ぜひとも頑張りたいと思っています。

〔辻〕

それでは、林田・伊勢お願いします。

〔三木：林田・伊勢地区〕

林田は、先ほども言いましたように、因幡街道、それと江戸時代が1万石の城下町やっつた。それをベースにして、歴史と文化の息吹く町林田、白然と環境に恵まれた林田。それをキャッチフレーズに活動を進めております。

江戸時代は、林田藩は1万石でございましたが、姫路市ということで考えますと、ちょっと肩を並べるには弱すぎるんですが、「2つめの城下町運動を進めようやないか」ということで一つの活動の柱にしております。姫路市では姫路藩と林田藩、昔は置塩城といって中世の時代の山城があるわけですが、何とか活性化のためにやりたい、ということで、地域資源の掘り起こしを行っているというところがございます。柱になりますのが、林田の陣屋跡です。これの復元が林田町民にとっては悲願であるわけですが、昔の資料がないという理由で、行政もなかなか相手にしてくれないんですけども、なんとか陣屋の環境整備を整えて、姫路市に「林田も頑張ってるな」と、そういうふうに思わすことから、少しで

も実現していくべきだと思っております。

それともう1つは、8月頃ですか、NHKでも報道がありましたので、少し見ていただいた方もあるうかと思うのですが、林田大庄屋川三木家住宅が、昨年の7月にオープンしました。

それと、林田のブースのところに展示している、ふるさとかかし人形です。昨年の8月頃に、ふるさとかかし人形展というのを開催したところ、NHKが取り上げてくれましたので、神戸や明石のほうから、多くの方に参加をいただきました。通常



入場される方の、5～10倍の人に来てい

林田・伊勢ブースに展示される「ふるさとかかし人形」

ただきまして、びっくりこいたというところがございます。そういうこととか、林田藩には、敬業館という名前の江戸時代の藩校がございます、昔ので残っているのは、兵庫県には1つだとお聞きしておりますが、そういう施設の活用を中心に進めたいと、ということで活動を進めております。また、新しいところでは、やはり資源と環境を大事にしようということで、太陽光発電をすとか、また、里山を作って、山をもっと大事にするとか。それと河川の公園を、姫路との契約を進めて、管理を我々がすとか、そういう活動を進めておるところでございます。

それともう1つ、今から力を入れたいと思いますのは、隠された文化財、もちろん市の文化財とか県の重要文化財になるような施設ではありませんけれども、文化財が色んな所に残っております。例えば、中世赤松時代に山城でございましたが、林田町には城がございます。世塩城というのですが、秀吉の播磨侵攻にあいまして、負けたわけなんですけど。そういう山城がありますから、そういう山城などを皆の手で開発して、皆さんに楽しんでいただけるような施設にしようやないかと。そういうような地域資源の活用を進めておるところでございます。

そういうことで、活動としては、陣屋まつりとか、歴史散策ウォークラリーとか、まちなかあるき等の活動を進めておるところでございます。

それと、もう1つ財源の問題についても報告せえと言われておまして、まあ皆さんに報告するほどの財源確保ができていないんですが、もともと県民交流広場が5年間で終わる事業ということでしたので、何とか5年過ぎた後も、県民交流広場が発展できるように努めたいということで、色々考えましたのが、1つは先ほどもちよつと出ましたけども、太陽光発電の導入でございます。

これにつきましては、もちろん財源問題だけじゃなくて、それ以上に環境問題を進めたいという意識がございました。「こういうところで太陽光発電をやっとんや」ということを、住民の皆さんにもわかっていただければ、ということとか、この県民交流広場事業のセンターの中に、太陽光発電システムパネルをつくる、とかをやっております。それと、なかなか大したことはないのですが、コミュニティ・ビジネスということで、私ども県民交流広場の会場、ふれあいセンターという名前にしとるんですけども、そこに自動販売機を設置して、さきやかでも売り上げをあげるとか、コピー機もカラーコピーにして、皆さんに安く活用していただくなど、少しでも財源が浮くようにという取り組みをやっておるところでございます。

ですが、24年度で(助成が)終わりますので、それ以後、今後どういう活動を進めていくか、というのが1つ大きな課題でございますので、財源問題につきましては、私のほうから報告するよりも、皆さんのほうから、色々とお知恵を貸していただければと思います。そういうことですが、太陽光発電の関係につきましては、幸いに、私ども林田の場合は公民館が非常に狭く、県民交流広場を公民館でやる所は非常に多くあるわけですが、公民館の場所が無かった。それと林田・伊勢と小学校区2つでやったということで、財源が2倍ありましたので、新しい事務所として、市の設備をお借りして、そこを改造して使っているのですが、新しい設備のため、太陽光発電がつけやすかったということと、設備も少し余裕があったというようなこともございまして、太陽光発電を使わせていただきました。以上でございます。

〔辻〕

ありがとうございます。生川のそばが、元々は淡路の花の活動から広がっていったというのがすごいですね。パンジーとかビオラとかを植えるというのはよくあるんですが、そばを植えてみようというところ、まずそこにひねりが一つあって、それから、食べてみよう。今度は、売ってみようというのがあって。戸隠に勝ったというのが、なかなかすごいですね。

それから、林田のどこ、色々歴史資源があるんだと、世間に知られているもの、一級のものではないかもわからないけども、地域にとっては大変大事なもんなんですよ、という認識から始まって、それを掘っていこうという、そんな話でした。それと太

太陽光発電については、経費削減とかいうところもあるんですけども、今後の地球環境のことを考えた、環境活動の一貫としてもやっていこうという、1つのことを、いくつかの目的を持たしてやっていく、そういうところがあったかと思えます。

それでは、会場からご意見とかご質問をいただきたいと思えます。

〔坂本〕

淡路生田地区の発言があつてびっくりしたんですけども、そば屋さんが180を超えて200食を超えたらなと思いましたが、どなたか、質問とか応援とかありましたら一言いただけたらと思うんですが。挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。淡路の方おられますか。いかがでしょう。

〔会場：神戸市東灘区〕

東灘からきましたウオモトといいます。地域資源で、そばの話は非常に興味を持っています。私は農業関係にいたものですから、淡路市といたら例の北淡町とか淡路町とか言われてきた北淡町ですね。

地震の時でもヒマワリ植えたり、パンジー植えたりしていた。しかし、そばというのは非常に発想が違う。そばは地力がある。都会の人には、特に関西の人はそばなんか見たことないから、とても斬新的に映ったんじゃないかと。それから、作って売るといふ、非常に淡路の人は商売上手だな、我々も行かしてもらって参考にさせていただきたいと思えました。

地域資源というのは、そばのように当たったらいいですけど、林田、私、兵庫県歴史博で林田も1回お伺いしておりますけど、自分とこの持っている文化的とか、地域のそういうの活用するというのは、こういう好事例は地元では、パッとなかなか発見しにくい。それはまあ地元に戻られて、自分の住んでいるとこのそういうのを活かしてみるといふのは大事やないかなと思います。以上です。

〔坂本〕

ありがとうございます。太陽光発電というお話もありましたが、いかがでしょうか。地区で頑張っていますよ。といわれる方、例えば姫路からお越しになった方とかおられませんか。はい、お願いします。

〔会場：林田・伊勢〕

あの林田の三木会長のほうからお話がありましたけど、姫路城はご存じですね。たつのも歴史的な景観でご存じですね。それなら林田・伊勢はご存じ

でしょうか？あまり、ご存じないですね。一応後ろ11番、林田・伊勢です。今日封筒受け取っていただけましたか？その中に入れていますが、もう一つの城下町、2つめの城下町と言いましたが、1つは姫路城、それに匹敵するようなのは林田です。地元の私たちでも、今まで林田の価値というものをあまり知らなかったんですけども、専門家に聞きますと「これ思っているより、ごっつい価値があるで」と、「三木家、県指定文化財のこれ国宝級やで」「敬業館、県に一つしかない藩校やで」と。私たちもあまり知らなかったです。

そういうものを掘り起こして、皆さんに広く知ってもらいたい。そして色んなところに隠れた道標とか景標とか、そういう色んな街並みとかね、非常に一見地味ですけども、味わい深い、それが林田伊勢です。是非お越し下さい。お待ちしております。

それから、リピーターをもっと呼び込みたいかなと思っています。今開発中ですが、是非皆さん、1回、2回、3回と来れば来るほど味が出ます。するめみたいなものです。

それから太陽光ですけども、林田・伊勢交流広場事業、ふれあいセンターという建物です。そこに太陽光設置していますけども、これはすぐ儲かるとか、どないやこないやいうことじゃありません。拠点でやっていますから使用料が当然要ります。建物の光熱費を差し引いて、なんぼでやるというふうなことで考えていくと、やはりこれは財源の1つの大きなメリットになるんじゃないかと、私は、交流広場のスタッフの1員としてはそう思っております。以上です。

〔辻〕

ありがとうございます。他になさそうでしたら、次のテーマに移りたいと思いますが、よろしいですか。あつ、はい。

〔会場：佐用町江川〕

佐用町から来ました江川地区でございます。一昨年は色々災害でお世話になりました。ありがとうございました。

表で賑やかに栗を焼いているものですから、ちょっと一言だけお話をさせていただきたいと思えます。私どもの資源環境といいますと、ヒト、モノ、産物です。歴史的なものということで3つほど考えて、従来、寄り合い所帯みたいにして、仲良くやっていた活動に加えて、何かやろうというようなことで、村おこし、町おこし、のほうを頑張っておるん

ですが、1つは、これは外から指摘されたんですが、先程からお話がありますように、歴史的遺産として、安倍晴明、陰陽師ということで、蘆屋道満の塚が非常に近くで対峙してあると。しかもその歴史的なお話が多少残っていると。それに対するお祭りは、その地元だけがやっていた。これは陰陽師に対する、畏敬の念とか、色んなものがあつたのでしょうが。それを生かしてみようかということで、コスプレイベントなどを昨年から始めました。多少面白い、若者を呼び込むような行事になった。「どうまんじゅう」というような新しいまんじゅうを作ってみたり、安倍晴明に加えてね「あべのせんべい」というせんべいを作ってみたり、そんなことを、若い婦人が考えてくれております。1つはそんなことです。

もう1つは、佐用町の江川というところは、かつて粟の名産地でございます、丹波と並べ称せるくらい、大阪では有名でございました。ですが、それが高齢化で、手入れが全然届いていない。しかも、鹿と猪の、エサやり場になっているというようなことで、これをなんとか復活して、もういっぺんご老人が草刈りだけでもして、取ってくれないかなということで、粟に付加価値をつけて出してみよう。普通に出荷すると売れないんです。菓子屋さんが大きな粒だけしか買っていかない。そんなことで考えまして、色んな付加価値、まんじゅう作ろうか、ようかん作ろうか、色々考えたんですが「手間が要るのは大変だよ。お年寄りばかりだから」ということで、現在の栗焼きというのに着眼させていただいて、ずいぶん好評で農協等に出荷するのに1kg450円程度で出荷しています。売るときは1,500円くらいで売られていますけれども。その買い上げをもう少し高くして、意欲を出してもらおうかというのを、色々な講習会だとかと織り交ぜながらやって、これから生きていける材料になるのではないかと、こういうようなことを思っています。まだございますけども、簡単なことだけご紹介させていただきます。

〔辻〕

ありがとうございます。佐用町のほうからの追加の報告がございました。それではよろしいですか。次のテーマへいきたいと思っております。

テーマ③：人材確保

次は人材確保。このテーマにつきましては、リーダーの育成の状況について、地域活動はやっぱりどなたかが先導的にやっていかなあかんようなとこ

ろが多々ございます。そういう中で、リーダーをどういうふうにして育成しているのかなというところで、奥銀谷と多聞台からそれぞれご報告をいただきたいと思っております。

〔渡辺：奥銀谷地区〕

それではリーダーの育成というテーマをいただいたわけでございますが、なかなか一口にリーダーの育成と言いましても、どういうふうにご説明したり、取り組みの報告をさせていただいたらいいのかなという思いでございます。とりあえず、自分たちの思っているところを少し述べさせていただきますと思っております。

このリーダーの育成ということは、私たちの地域だけではなく、全体の自治会なり、色んな協議会等におきましても、問題として取り上げておられるのではないかと思います。特に少子高齢化が進む中で、後を継いでいただく子どもさんや若い人が少なくなった。今まで活動しておられたリーダーの方が高齢化によって離れていくということで、本当にリーダーになっていただく方がおられない。なので、どこの地区においても、地域においてもお悩みの問題ではないかと思います。そういうことで、取り組みでございますが、今日のように、生活が多様化する中で、私たち地域の自治協議会は、地域自治、地域の活性化というものに取り組み中のリーダー、先に立つ人については、非常に育成というものが難しい、後継ぎをしてもらえる人が少なくなったと思っております。

今は生活が多様化しておりますので、色々な活動をしなければいけないということで、やはりリーダーに負担がかかっているということが、リーダーの後継ぎができないということではないかと思っております。しかし、そういうことばかりを言っていたのでは、前向きな取り組みはできませんので、私たちが取り組んでいること、課題としていることをいくつか述べさせていただきますと思っております。

私たちはリーダー育成について、今活動しておられる方に、一人一人周りの人に声かけをしてもらう。色々な機会を使って、チラシとか紙を配るだけでは、人が集まりませんので、周りの人、親しい人に声かけをしてくれというふうにして、人を増やしていこうと思っております。

私たちの自治協議会には4つの部会がございます。その中でテーマを持って活動しております。部に入ると、活動の範囲、全体をカバーしていかなければならない。ということで、入りにくいという

面もございますので、自分が好きなことだけ、自分の得意な分野だけでも良いから、それに参加して欲しいという呼びかけもいたしております。特に次世代を担っていただく若い人も入ってきていただけないという問題もありますので、これは若者交流会ということをしております。これは地域に若者が少のうございますので、地域だけではなしに、他地域の方々にも呼びかけをいたしまして、来ていただいて、活動することによって、他地域との交流にもなります。また、そういうことに参加することによって、面白いなと目を向けていただけたらという思いで、そういう若者を対象にした活動等も行っております。また、活動するにあたりましては、無理をしないとか、押しつけない、自分の背丈にあった活動をするとか、楽しさが分かる活動をしていきたい、とこのように思っております。

そして、もう1つは自分たちが活動するだけではなしに、やはり底辺を広げていって、何らかの形でこちらに目を向けていただいて、お手伝いをしていただけるような輪を広げていきたいと思っております。

それが悪いでございますが、今言いました、無理をしないとか、押しつけない、とここで私が言いましたが、今日、生野紅茶の試飲会をしておりますが、押しつけないとか無理をしないというふうに、私が良い格好して言っていたら、地元に戻ったら怖いなあと思っております。と言いますのは、



「生野紅茶」の試飲を提供する
奥銀谷ブース

今日は市の活動なり、PTAの活動なり、色々重なって、それぞれがそっちへ出て行ったものですから、人が集まらなくて、当初はもう少し来てもらうつもりだったのですが、来られる人がいなくなりまして、際にまで無理言って、役員さんの奥さん連れてきてもらったりしまして、そういう状態ですので、あまりここで良い格好言っていると、「何を言うとするんや、無理やり連れてきて」とお叱りを受けるなあと思配しているところでございます。以上です。

〔高橋：多聞台地区〕

人材育成というのは本当に難しいです。

多聞台のふれまち協議会、15～16年前から役員顔ぶれが全然変わっておりません。委員長は今年80歳になります。副委員長は76歳です。かく

いう私は、ご覧のと通りの老いぼれです。役員平均年齢76歳です。これも、じじいの集団ですよ。この顔ぶれで何ほどのことができるかという問題になると、ずいぶんと不安です。高齢ですから、いつ倒れるかわからない。誰かが倒れたらそれで活動は停止してしまうという危機感があります。

折に触れて広報誌で「若い力を求めているんだ」と、「何とか若い力を貸して欲しい」という訴えをしまして、しかし若い人は若い人でね、生活維持するのが精いっぱい、「おっちゃん、そんなこと言うたかて、わしら嫁はん子ども食わずの精いっぱい、おっちゃんらみたいに地域の活動なんかやっとなれへんわ」という返事が返ってきます。このままでは、多聞台ふれまち協議会はやがてつぶれます。新しい人材が来なかったら。そこで、ついに約2週間前、飲み放題、食べ放題のパーベキュー大会を開きまして、若い人よ集まってくれと、お金はいらんから集まってちょうだいよということで集まってもらいました。幸いなことにね、予想外の12～13人来てくれました。その場で私訴えたんです。若い人が来てくれたからと言って、下働きでこき使おうとは考えてへんのやと。今日ここにきて下さった皆さんは、次期委員長なんだと、次期副委員長なんだと、次期役員なんだと、そやから、どうぞ我々年寄りの下働きで働くとは考えんと、俺こそが委員長になるんだという考えで、ふれまちに集まってくださいと訴えました。

これは、我々助けを求める側が、自分のポジション守るために、汲々として、若い人に席を明け渡さない。これ一番の弊害だと思うんですよ。私たちはいつでも席を譲れますと言っているのです。

実は、役員顔ぶれ変わらへんと言いましたけど、2年ほど前に、一人60代の人が入ってきてくれました。これが結構活発な男でね。即副委員長に就任してもらいました。「もうよう来てくれた。あんた明日から副委員長や」ということで副委員長になってもらっています。

同じようなケースは各活動部門で、盛んにやられております。例えば私、この後ここで演奏する予定になっております、和太鼓チーム多聞だんだんの創設者なんですが、長い間、多聞だんだんの代表を務めておったんですが、去年ですか、代表の座を若い人に譲りまして、そうすると、私がやっていた時より、今若い人がやってくれている活動のほうが、実に素晴らしい。活発なんです。技術的にも、私がやっていた頃より、はるかに水準が上がっています。そういう若返り効果というのは、貴重な体験でした。

ですから、今後、こういう年寄りが身を引いて、隠居して若い人に席を譲るという方策は続けたいと思っています。石けん作り教室とか、堆肥作り教室とか、色々やっているわけですが、そういう教室、最初私がやっていたんです。リーダーでね。今はもう全部若い人に任せて、私はもう口出しせんことになっています。そのほうが活発なんですよ。やっぱりじじいは、ひっこまなあきませんよ。ほんまに。



ということで、若い人材を確保するためには、年寄りが席を明け渡すというのが一番大事だと私たちは学習させていただきました。以上です。

〔辻〕

それでは、このテーマ、なかなか深刻なものがありますので、会場からご意見いただきたいと思えます。

〔坂本〕

いかがでしょうか。口は出さずに知恵を出せ、素晴らしいお話をいただいたのですが、どなたか、うちもちょっとだけこんな工夫しているよ。うちは若い世代が出てきているよ。というところがあれば、是非お伺いをしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

テーマ④：組織運営

〔辻〕

ないようでしたら、あと私たちいただいた時間10分間くらいです。もう1つのテーマ「組織運営」というのがありますが、今までのスタイルだとちょっと時間が足らんようになってしまいますので、私から林田・伊勢地区と生田地区さんのほうに、インタビュー的にお話を伺ったらどうかと思いますので、よろしくお願ひします。両地区とも地域活動の中で、NPO法人を立ち上げたと伺っておりますが、どういうNPO法人なのでしょう。

〔三木：林田・伊勢地区〕

NPOを立ち上げようとしたのは、1つは、県民交流広場事業が5年間の時限事業やと。従って、受け皿作りを考えようやないか。と、というのが一つです。

それからもう一つは、先程お話しさせていただきました

ましたように、県の重要文化財、有形文化財の三木家住宅が、約10年かけて工事をやっていただきまして、リニューアルオープンと言いますか、新しくなりました。その一般公開を行うための管理業務が必要になると。何とか地域の施設ですから、地元の手で管理をさせてもらうような体制はできないだろうかと、この2つが、NPOを立ち上げた大きな理由でございます。

従って、NPOの活動の柱としては、林田町の活性化とか、コミュニティ活動の充実とか、そういうのを主体に動いております。以上です。

〔田村：生田地区〕

うちは今、NPO法人の立ち上げというものを検討中、近々するということなんです。主としては見ていただいた通り、税金対策。

〔辻〕

税金対策？おお、儲かっています？
ちょっとその辺を。

〔田村：生田地区〕

このままでいきますと、消費税も課税される、そういう団体になる可能性があるのです。

所得が出てきますと、誰の所得になるんだと、いうようなことになりましたので、地域としては、任意団体のままでは、そういう税務の方向で、税金対策としては、きちっとした対応ができないだろうということから、きちっとした納税、必要な納税、ということで考えています。ただ、NPO法人にすれば何かごっつい色々得かなと思うけども、あんまり得なことないですね。税の控除があるわけでもないし、何でもなし、せめて県税の部分だけでも、そういう検討をしていただけたらありがたいなという気持ちで今ここにおります。

〔辻〕

地域の皆さん方、活動なさっているのはだいたい任意団体ですよ。法人化しているところは少ないかなと思います。

今、生田地区のお話がありましたように、花がそばになって、そば屋になって、税金のことを心配せなあかんようになってきたと。なかなかリアルな話ですが、実は納税義務っていうのが全国民に負わされておるわけですね。皆さん、税金払いましょうね。その税金がまた回って、県民交流広場になっていきよるんですよ。そんな中で、1地区だけ考え

てみたら、団体として税金というもの、それから会計の公平性、透明性というんですか、そういったものをきっちりやっつけていかなお金が増えれば増えるほど、それは責務が出てくるわけですから。そういうものにも対応しようというようなことがあったようですね。

他の地域の皆さんで、NPO法人を立ち上げたとかいうところはございませんでしょうか。…まだないようですね。ひょっとして儲かる事業が出てきたら、生田のほうへ行って、NPOどうなったという、それから、林田さんのほうでは、重要な文化財のあと、施設をきっちり管理せないかん、そういう中で、任意団体ではなかなかやり切れんだろうと、社会的にもちゃんと評価してもらわなあかんだろうというところで、法人化に踏み切られたと、ということかと思います。

それぞれのご事情によって、組織をどういう形でやっつけていくかというのが、それぞれの地域での、お話しというのがあったのではないかなと思います。

それでは時間もぼちぼち迫ってきておりますので、最後にとりまとめていきたいなと、とりまとめられるかわかりませんが、坂本さん、どうですか。

〔坂本〕

今、聞かせていただきまして、どのお話もいつか来た道、これから通る道かなと思いました。

若かったけど、年とった。これは皆さん、どんな方も平等に年をとりますし、私の町も今ニュータウンと言われますが、いつかオールドタウンと呼ばれます。この中で、本当に色々なお話を聞かせていただいて、これは私の町、これから10年、20年経った時の、ここの町なんだから、今から頑張らないといけないとか、色々、参考というか、本当によく頑張られていると思うのと、兵庫県は広いなと思いました。食も文化も歴史も、本当に素晴らしい所なので、私たち一人一人が兵庫県民として、各地域で頑張ることが、これからも兵庫県って、素晴らしい町になるんだなと思うのと、皆さんに共通してあったところが、まず自分たちでできることとおっしゃいました。私の町でできること、私たちの細織でできること、これが本当に地域活動の基なんだなと、今日は感じました。

本当に良い交流会ということで、私も良かったと思います。本当にありがとうございました。

〔辻〕

最後に私も少し感想を述べさせていただきたい

と思います。

県民交流広場の活動を、皆さん色々おやりになっていると思いますが、県民交流広場の活動って何のためにやっているのかな、その、もう1つの手前の原点があるんだと思います。地域のためにというところがあると思います。県民交流広場を維持するためにやっつるのではない、地域のためにやっつる。それがたまたま、手段としての県民交流広場があるんだよ。他にいっぱいあるんですよ。そういうふうに考えていく必要がある。行き詰まったら原点に戻る。地域のために、というようなことが必要なんじゃないかなと思います。

それと今日、お呼びの方々のお話をお伺いしましたが、それぞれ、創意工夫があったんやということが、わかりましたね。全く同じことを皆さん方の所でできるとは思いませんけど、その地域、地域で、あるいはその地域の人材で、こんなことができるんだということを考え出した。その辺の皆さんの力というのがひしひしと感じられたと思います。この2点、私の感想としていきたいと思いますが、ちょうどあと2、3分で14時になります。色々な1時間半、お時間を頂戴いたしました。色々な感想を持っていただいたと思います。最後にお一方だけ、ご意見ありませんか。これ言わな今日寝られへんという方いらっしゃいませんか。大丈夫ですね。もうよろしいですか。

それでは今日のフォーラム、大変実りのあった意見交換ができたなと思います。どうもありがとうございました。皆様にも拍手をどうぞ。

(敬称略)

〔金澤副知事：あいさつ〕

皆様、こんにちは。

今日は地域コミュニティ・フェスティバルを開催いたしました。本当に大勢の皆さんにご来場いただき、主催者として大変うれしく思っております。

県民交流広場の新規採択が平成22年度で一応終わったということで、区切りの意味も含めて今年のアワード、コミュニティ・フェスティバルは県公館で行いました。ただ、内容はいつもどおり、それぞれの交流広場のブース展示のほかには様々なステージイベントや、地域交流フォーラムなど盛りだくさんな内容でやらせていただきました。

ご参画をいただいた皆様方全てに心から御礼を申し上げたいと思います。また、申し遅れましたが、ご来賓の皆様、大変お忙しいところありがとうございました。

県民交流広場事業ですけれども、全県下に829の小学校区がありまして、その中で683校区、だいたい8割の校区でこの交流広場事業を展開していただきました。それぞれの地域の皆さんの本当に積極的な取組によって8割まで達成できたことを、心から御礼申し上げたいと思います。

また、それぞれの活動内容も各地域の地域性に即した形で実に多彩な取組が行われております。子どもたちの見守り活動もございまして、地域の安全安心を確保する活動、あるいは夏祭りやハイキングといった交流イベント、喫茶店づくりといった交流・ふれあいの場づくりなど、本当に多岐にわたっていると思います。

また、継続的に活動していくための意味「財務基盤」みたいなものを、それぞれの地域で工夫をいただいていたたり、NPO法人活動をしていらっしゃる場所もあつたり、それから喫茶店経営あるいは特産品の販売をされたり、そういう形の収入基盤を作ろうとされたり。あるいは様々な公共施設の指定管理をしたりすることによって、活動を存続させていこうと、大変それぞれの交流広場地域の皆さんの知恵と工夫を凝らしていただいて、これまた多彩な取組が行われているところだと思っております。本当に皆さんの「知恵出し」というか工夫・ご尽力、はたまた高い思い。県民交流広場の裾野が、こうした形で広まって参りました。

そうした活動がまた1つの広がり、また次の広がりにつながる、1つの交流がまた次の交流に展開して…そういう狙いもあつて、こうした皆さんでお集ま

りいただく場を作っていきたいと思っております。

アワードの形で、今日は各県民局から2つずつ全部で20のいわば選りすぐりの代表事例をご紹介いただいているわけですが、そのなかでも更に顕彰させていただく、という段取りになっておりますが、これは顕彰させていただくこと自体が目的というよりは、それによっていろいろな地域の創意工夫あふれた活動を他の広場の皆さんにご紹介をし、そういうところから更に学びを得て、次のそれぞれの広場の展開に繋げていただく、そういう「輪を広げていく」というのが目的でございます。

683の広場それぞれに顕彰に値する活動が行われている、ということをご承知の上でさらに代表事例をご紹介することによって高めていきたいという思いでございます。そうした思いを皆さん方と共有をさせていただきたいと思っております。

毎年毎年、アワードの顕彰事例を審査員の皆さんにご審査いただくんですけれども、大変なご苦労をいただいております。これはある意味当然として、優劣をつけるというのは、本当は不可能だろうと思っております。ただそうしたちょっとでも特色のある、皆さんにご紹介したいようなポイントのある所をあえて顕彰させていただくという趣旨でございます。ご理解をいただければありがたいと思っております。

それから、今日はそれとあわせて県民ボランティア活動の表彰式もさせていただきます。

本当に長い年月にわたって温かいお気持ちでボランティア活動をずっと継続していただいた皆さんに、心から感謝と敬意をささげたいと思っております。

今日は、地域あるいはコミュニティ、あるいは人と人との絆、つながり、といったことをキーワードに活動をされている皆さんのいわば大会でございます。これまで丸一日間、いろんな形でお互いの交流を深めていただいたと思っておりますが、それがまた明日に向けての皆さん方の活動のエネルギーになる事を心からお祈りをいたしまして、この表彰式に際してのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

〔野崎委員長：講評〕

いよいよ、終わりに近づいてまいりました。今日もパネルをずっと拝見させていただいて、審査をするという特徴のある5つの賞に該当すると

ころを探し出すという作業だったので、まったく皆さんの活動に優劣をつけて「どこが優れているか？」とかそういうことではございませんでした。

いずれも、総合力を発揮してやっておられるところであるとか、非常に特徴的な活動をしておられるところ、様々ございました。毎年、こういう形で皆さん県民交流広場事業の多様な活動を見させていただくことを非常に楽しみにしておりました。



今年も「一度県民交流広場事業を始めたんだけども中断をして、その中断を乗り越えて更に大きく活発な活動を生み出した」ところもございました。

それから「地域の中のいろいろなことをやる名人の方々、そういう人たちを集めて、その人たちを核に地域のいろんな大勢の人たちの参加を得て、一つの作品を作り出す」そういうふうな活動も見させていただく事が出来ました。それから「地域の中で地域のいろいろな作物から地域の名物を作り出して、広く都会から人を呼び込もう」というような活動もたくさん見せていただきました。

毎回思うんですけども、県民交流広場事業の特徴というのは今日来られている方も非常に、こう、出せない形ですよ。普段はなかなか地域の活動に参加できないような人たちが、いろんな小さなグループで活動していた人たちが、県民交流広場事業によって、非常によく繋がってきて、地域の団体とも繋がっているような活動を起こされている。ということが、非常に県民交流広場事業を5年間やってきて生まれた成果ではないかなと、今日もずっと発表を聞かせていただきまして強く感じました。

人が減っていくとか、高齢化が進むとか、これはもう日本全国で言われていることですけども、特に私自身も兵庫県さんの後援をいただいて、東日本の被災地に先ほどフォーラムの司会をされていた辻さんと地域に入って、いろんな支援が出来ないかとやっているんですけども、日本国中、全国、人が少なくなるとか、高齢化が進むということは、どこも同じ課題を抱えています。そういう中で東日本の場合は大きな災害を受けたので、非常に切羽詰まって乗り越えなければいけません。ということで、非常にどういうふうに活動していこうかということ、今皆さん必死になって考えておられます。

幸いと言いますか、兵庫県は16年前に阪神・淡路大震災がありましたけれども、その後、それを教訓にして地域が大事であると、それから人口が減って高齢化が進むに従って、ますます人のつながりが大事だとか、助け合いが大事だということを皆さん学んでこられて、我々もそれを学んでやってきたのが、ある意味では県民交流広場事業だったのではないかなと思います。そういう意味では、何が言いたいかは恥ずかしいんですが、「被災地の東日本の人たちと一緒に歩んでいるんだ」という思いでこれからも広場事業を、みなさん頑張ってやっていただければ、その成果がまた、東日本の支えにもなるかもしれない。という思いを今日はいたしました。

あまりアドバイスにはなりませんけれども、感想とさせていただいて、今日の講評とさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。



《選考基準》

- ① **いきいき広場部門**
(地域性：地域の個性、地域資源を生かした取組が顕著である。)
- ② **なるほど広場部門**
(独創性：ユニークなアイデアや独創的な取組が顕著である。)
- ③ **みんなで広場部門**
(多様性：多くの住民や団体等を巻き込んだ取組、効果的な情報発信、地域を越えた連携が顕著である。)
- ④ **すくすく広場部門**
(継続性：新たなリーダーの養成や安定的な財源確保の工夫などの取組が顕著である。)
- ⑤ **しっかり広場部門**
(組織運営の堅実性：民主的な意思決定機構や幅広い住民の意見聴取など組織運営上の取組が顕著である。)

